

年間第30主日

福音朗読 マタイ 22・34-40

2023.10.29 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音の中では、最も大切な二つの掟として、神である主を愛すること、そして、隣人を自分のように愛すること、この二つをイエス様がお示しになったという出来事をわたしたちは聞きました。それでは、「神である主を愛する」ということと「隣人を自分のように愛する」ということは、じゃあどうということなのかな、ということを考えてみたいと思います。

まずは、「神である主を愛する」、それは自分がキリスト信者だということを周りにもアピールし、自分も意識する、そういうことなんでしょうか。わたしは、もっと自分の生き方にかかわることが、そのほんとの内容なんじゃあないかなと思います。ところで、神様とは何か人間を超える漠然とした存在というふうではなくて、神はご自分がどのような方かということをお示しを聖書を通してはっきり示してくださった、というふうにはわたしたちは信じています。神様はわたしたちに命を与え、そして虐げられて奴隷だった人々を解放して自由な民にし、その独り子イエス様をわたしたちのところに送り、罪と死の奴隷状態から本当の自由に生きるように、と呼んでいる。そして、そのためだったら全てをお与えになるんだということをお示しを、イエス様の生涯を通して示してくださった。それがわたしたちの信じている神である主なんだ、ということがキリスト教の信仰です。その神様を愛するということは、神様からいただいた一人ひとりの命を感謝して受け取るということだし、自分を自分で何かの奴隷にはしない、そういう生き方をすることだと言えらると思います。

奴隷っていうのは、なにも古代の社会の、石を運んで、鞭で打ちたたかれる、そういうような直接的に拘束されているという状態だけではありません。むしろ、わたしたちが自分の人間としての価値を他の人の評判、他の人からの評価に委ねようとするとき、また、一人ひとりの生き方を社会のシステムの中に適合させて、そういうことだけに人生の歩みを求めようとするときに、また、どのように生きるかということをお考えることを止めて、自分の脳みそを誰かに預けて、誰かに決めてもらおうとする、また、その裏返しとして、「自分の生き方は誰かのせいこうなっているんだ」というふうには誰かのせいにしようとする、そういうときに、わたしたちは神様からいただい

た尊い一人ひとりの命を自分のものとして受け取るのではなく、誰かの奴隷として、自分で自分を奴隷にしてしまう。そういうことなんです。

そしてまた、罪の奴隷っていうのは自分中心の考え——罪っていうのは神様と、そしてお互い同士が切り離された状態だから——自分中心の考え方に従って生きようとする、じゃあそれは、自分中心だから自由なのかというと、自分が何を求めているのか、ほんとに何を望んでいるのかというのを、欲望は教えてくれないんです。いろんな角度から欲望はわたしたちを引っ張ろうとするから、罪あるいは欲望に従う生き方っていうのは、他の人と、また神様とわたしたちを引き離すだけではなくて、自分の中にいろいろ分裂をもたらしてしまう、自分が自分でなくなってしまう。それが罪の奴隷っていう状態です。

そのようなものとして生きるのではなく、一人ひとりがいただいた自分の命を感謝して受け取り、そして自分の人生の歩みに責任を持って誠実に歩む、それこそが「主である神を愛する」ということの根本的な内容なのではないかなと思います。大きな十字架を首からぶら下げたり——ぶら下げてもいいんですけど——、「他の人とは違って教会に属しています」という党派心の中に埋没する、それが神様を愛することではありません。一人ひとりが自分の人生を感謝して受け取り、そして責任を持ってそれを歩む。できるならば、それを喜ぶ。それこそが、主である神を愛することだし、それは必ずしも簡単な歩みではないからこそ、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」（申命記6・5）行っていくように呼ばれているんだと思います。

このように自分自身の人生を自分の足で歩む、他の人に預けない、そういう人こそが、隣人をも同じように尊重することができるわけです。また、隣人を尊重することを通して、わたしたち自身がだんだんに罪の奴隷から解放されていくとも言うことができるでしょう。それは相互に関係しているんでしょう。ですから、わたしたちが他者を愛するということは、他者を支配するというのではないんです。同じように一人ひとりが自分の人生を感謝して、あるいは責任感をもって受け取りながら歩いていくように助け合う、それこそが「隣人を自分のように愛する」ということだと思います。

今日は、この教会で行われるバザーとして様々な隣人援助、いろんな他の人たちを援助する、そういうグループの人たちがその活動のためにお店を出したり、また活動を紹介したりする、そういうバザーの時になっています。そういう意味では、隣人を自分のように愛するということの大きな実践の第一歩、あるいはそれを象徴する行事だと言えることができるでしょう。わたしたちが自分自身の与えられた命への責任を、そして他の人も同じようにその責任を担っていくことができるように、援助していく、

また援助し合う、そのような者として、神を愛し、隣人を自分のように愛する者となっていく。まことの人間として成長していくことができますように、神様の助け、そして導きを願いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>